

都立高校の 魅力向上等に向けた懇談会 (第2回)

令和7年11月20日

○ 都立高校の役割について

- ・私立との対立的なロジックにはまらず、色々な可能性を考えていきたい。
- ・不登校など様々な困難を抱えた生徒が増えている。チャレンジスクールが高倍率であるが、多様な学びを用意することが、こうした生徒らの興味・関心を引き、学校へいざなっている面もある。
- ・魅力を向上してどうするかが大事。都立高校は、公教育としてビジネス的に成立しづらいところに目配りすることや戦略的にどのような人材を輩出していくかなどの視点も必要である。

○ 人材育成について

- ・中学生は、「まずは高校で学びたい」と考えるのだが、次に自分の希望する進路を実現してくれる、自分のやりたいことや個性を認めてくれる、伸ばしてくれるという視点で学校を見ている。
- ・広域通信制の学校は、以前は学校に距離を置いていた中学生が多く進学していた印象だったが、昨今は「今、やりたいこと・好きなことに取り組めるか、望む将来に直結しているか」というキャリアプランを持った中学生が積極的に選んでいる様子もある。
- ・都立高校は、グローバル人材の育成について、予算も内容も全国トップレベル。海外大学への進学支援など、都や日本を支える人材育成を一層期待したい。

○ 進学指導について

- ・保護者や生徒の声を大切にして、時代の変化に対応することも大事である一方で、学習指導や進学に特化した学校も魅力として根強いと受け止めている。
- ・学びに対して受け身の大学生が増えている。大学全入時代において、一人一人の高校生がどういう成長を望み、どういう進路や将来を実現していくか検証していくことが必要と思う。

○ 部活動について

- ・部活動に打ち込んでいる中学生は、その継続ができるかも学校選びにおける重要な要素。私立の強豪校は、中学校へスカウトに回っている。馬術やフィルハーモニーで有名な都立高校を知っているが、各校1つずつ、何かの部活動を特色化すると良い。
- ・都立高校のサッカーチームが全国大会へ出場した際に、「私立ではレギュラーをとれないかもしれない。」という思いで、都立を選んだ生徒もあり、一丸となって頑張ることで、成果を上げることが出来た。

○ 施設・設備について

- ・子供と進路選択の話をした際は、施設や設備が一番の話題であった。校舎が改築されたら、入試の倍率が上昇したことは印象深い。
- ・都立高校を島しょ部の学校含め、20校ほど見学した。洋式トイレなど、最低限の教育環境の整備は徹底してほしい。

懇談会（第2回）の主な論点

◎ 検討テーマと主な論点

テーマⅠ グローバル化やデジタル化等に対応できる人材づくり

- 将来の予測が困難な社会において、グローバル人材やDX・AIなど成長分野を支える人材を育成するため、各学科の特色化など、どのように進めていくべきか。

<課題認識> これまでの社会の変化や2050年を見据えた未来の社会で求められる資質・能力の変化を踏まえて、どのような人材の育成に取り組むべきか。また、都立高校においても、今後、社会で必要とされる高度専門人材の育成等に向けた検討を進めていくべきではないか。

<人材育成> グローバル化や、デジタル化等に対応できる人材について、どのような資質・能力が求められており、どのような取組を充実させていくべきか。

<専門学科> 産業・就業構造の変化を踏まえ、どのような学科が望まれているのか、あるいは、学びの選択肢を増やしていく観点から、従来の学科の枠組を超えて、新しい学科を作ることも視野に入れて、検討を深めていくべきではないか。

4 <職業学科> 上記の論点を踏まえ、農業、工業、商業といった職業学科をどのように充実していくか。

1

社会の中で求められる 資質・能力

4

他県の公立高校等の 参考事例

2

都教育委員会の取組

2-1 グローバル人材の育成

2-2 デジタル人材の育成

2-3 理数教育、探求的な学びの充実

3

専門学科高校の取組

3-1 専門学科高校の現状

3-2 農業科

3-3 工業科

3-4 商業科

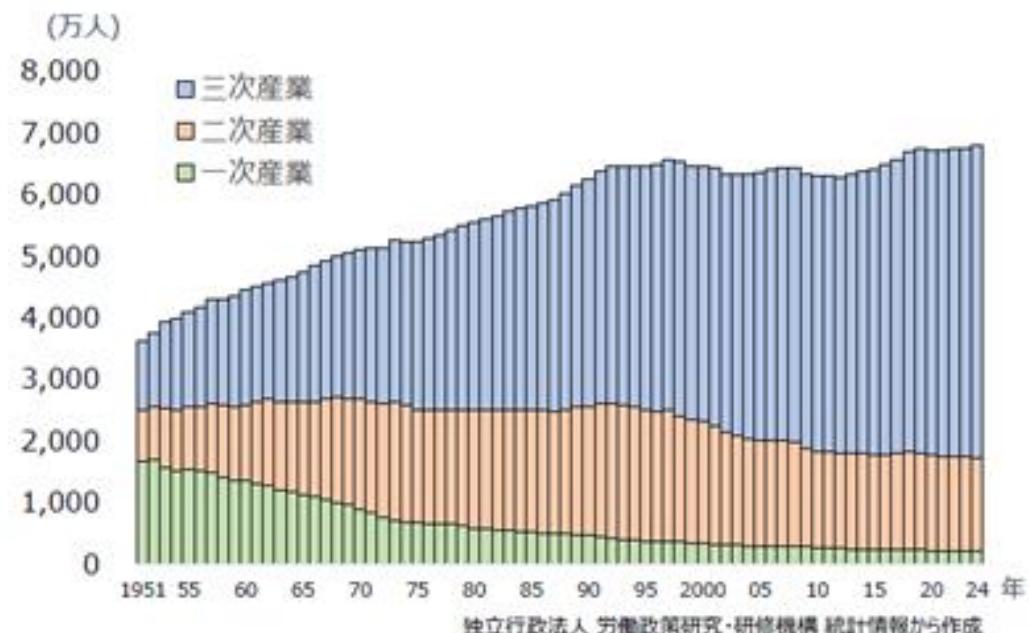
1

社会の中で求められる資質・能力

変化する社会構造（産業構造や大学等進学率の変化）

- 日本においては、第三次産業（サービス業など）が経済の約7割以上を占める、という構造に変化
 - 第一次産業就業者数は、1950年代に最も多かったが、2024年には192万人にまで減少
 - 第二次産業就業者数は、1980年代に約2,000万人まで増加したが、2024年には1,525万人にまで減少
 - 第三次産業就業者数は、就業者数・構成比ともに安定的に増加し、2024年には5,064万人に増加
- 男女ともに進学率は上昇傾向。とりわけ、女性の進学率は1950年代と比較すると、約50ポイント増加

産業別就業者数の推移



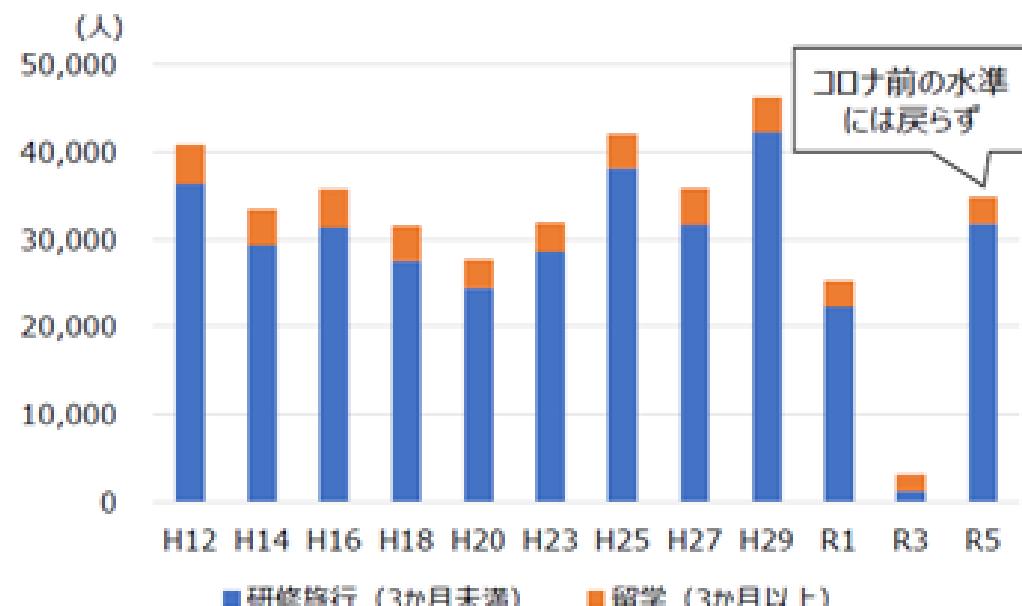
大学・短期大学等進学率の推移



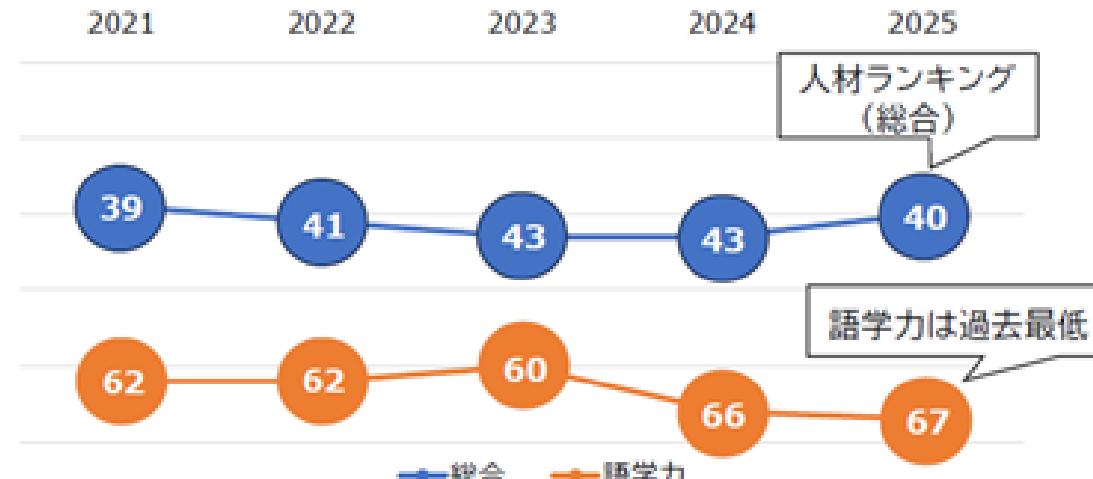
変化する社会構造（グローバル化の加速）

- 令和5年度に海外での留学や研修を経験した全国の高校生の数は約3.5万人
コロナ禍を経て回復傾向にあるものの、依然コロナ禍前の水準
- IMD（国際経営開発研究所）が実施する「世界人材ランキング」において、日本は69か国中40位
語学力に関しては過去最低の67位

高校生（全国）の留学生数



日本の世界人材ランキング 順位の推移



※世界人材ランキング：投資と育成、能力、準備度の3領域から構成され、計31の指標に基づき算出
※語学力は「準備度」領域に含まれ、企業幹部へのアンケート結果等から算出

変化する社会構造（デジタル人材等の不足）

- 企業でDXを推進する人材の確保状況について、「大幅に不足している」「やや不足している」と回答した企業の割合の合計は85.1%にのぼり、大半の企業でデジタル人材が不足
- IMD（国際経営開発研究所）が実施する「世界デジタル競争力ランキング」において、日本は67か国中31位
人材知識レベルに関しては過去最低の53位、さらに、「デジタル/技術スキル」の項目では67か国中67位（最下位）
であり、人材知識のスコア、デジタルスキルのスコアが低い。

企業においてDXを推進する人材の確保状況



独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)「DX動向2025」から作成

日本の世界デジタル競争力ランキング 順位の推移



*デジタル競争力：知識（人材（デジタル・技術スキル高む））、テクノロジー、将来に向けた環境整備の3領域から構成され、計154の指標に基づき算出

*人材知識：PISAの数学的リテラシーの評価、シニアマネージャーの国際経験、外国人高度人材に対する魅力、デジタル・技術スキルの利用可能性、留学

生の流動性（受入数と派遣数）等から算出されたデータを総合的に評価

IMD「世界デジタル競争力ランキング」から作成

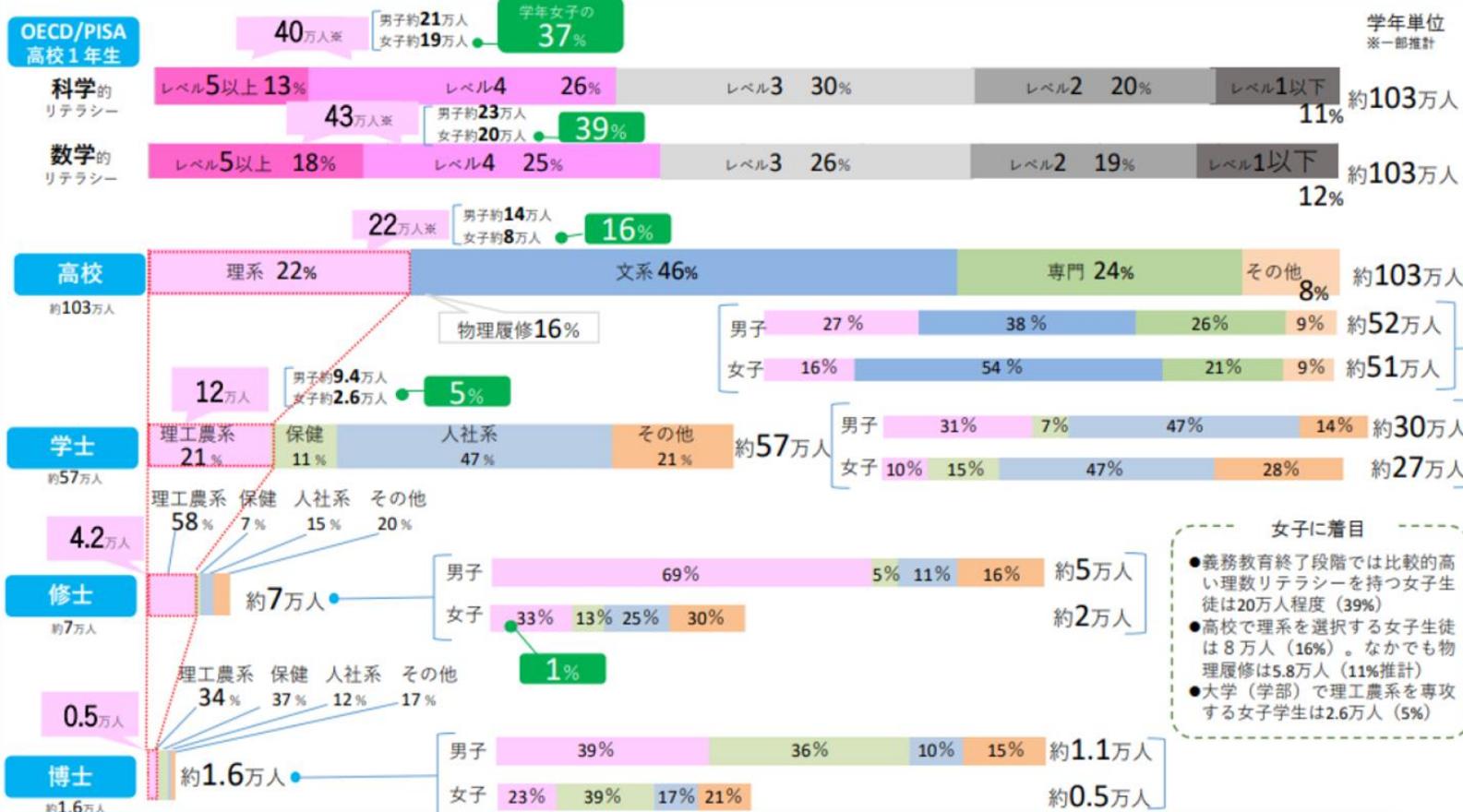
変化する社会構造（デジタル人材等の不足）

- 専門的技術的職業（研究者、技術者など）のうち、AIやロボット等の活用を担う人材が2040年には合計で約300万人不足する見込み。

	管理的職業	専門的技術的職業	うちAI・ロボット等の活用を担う人材	事務	販売	サービス	生産工程	輸送・機械運転	運搬・清掃・包装等	
全産業	2040年の労働需要 (2040年の労働供給※現在のトレンドを延長した場合)	124万人 (175万人)	1387万人 (1388万人)	498万人 (172万人)	1166万人 (1380万人)	735万人 (786万人)	714万人 (724万人)	865万人 (583万人)	193万人 (169万人)	415万人 (269万人)
	供給とのミスマッチ	51万人	-49万人	-326万人	214万人	51万人	10万人	-281万人	-24万人	-146万人
	*2021年現在の就業者	143万人	1281万人	196万人	1420万人	834万人	880万人	885万人	244万人	516万人
の主な労働需要の2割の内訳による年	製造業	24	206	130	196	52	0.7	642	10	52
	情報通信業	3.9	131	46	43	14	0.3	3.9	0.2	0.8
	卸売業、小売業	25	58	28	186	489	5.8	102	4.3	106
	建設業	19	42	13	84	23	0.6	38	14	5.7
	宿泊業	1.8	6.9	5.6	4.9	3.9	86	1.0	0.3	6.5
	飲食業	2.6	2.8	1.0	7.4	8.7	172	1.9	0.5	12
	運輸業、郵便業	5.8	21	18	68	5.8	2.9	6.4	128	81
	医療・福祉	5.5	450	94	107	1.6	255	6.5	10	14

変化する社会構造（大学等における専攻分野の推移）

□ 15歳児を対象としているOECD生徒の学習到達度調査(PISA)では、比較的高い理数リテラシーを持つ生徒が多いにも関わらず、高校・大学で理数系を選択している生徒の割合が低い状況



（出典）OECD/PISA高校1年生内訳：OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2018年調査に基づき作成。
OECD/PISA高校1年生及び高校 総人数：令和2年度 文部科学省学校基本調査より推計。

高校内訳：国立教育政策研究所「中学校・高等学校における理系選択に関する研究最終報告書」（2013年3月）に基づき作成。
学士・修士・博士内訳：令和2年度 文部科学省学校基本調査に基づき作成。

総合科学技術・イノベーション会議「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」（2022年6月2日）

□ 都はこれまで、ダイバーシティ、スマートシティ、セーフシティの「3つのシティ」実現に向けた政策を実行
 「世界で一番の都市・東京」を実現していくため、2050年代の東京の姿「ビジョン」を描き、バックキャストの視点で
 「戦略」を定めており、28の「ビジョン」と「戦略」の柱を掲示

2050東京戦略～東京 もっと良くなる～

もっと!! ダイバーシティ

誰もが将来の夢や希望を叶え
 もっと一人ひとりが輝く東京へ

もっと!! スマートシティ

東京のポテンシャルを磨き上げ
 もっと活力溢れる東京へ

もっと!! セーフシティ

強靭で持続可能な都市を創造し
 もっと安全・安心な東京へ

主な2050年代のビジョン

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 03 教育 | 子供・若者が希望を持って、自ら伸び、育ち、未来を創造 |
| 04 若者 | 将来を担う若者が希望に満ち溢れ、描いた夢を叶えられる |
| 06 働き方 | いつでも自分らしくポジティブに働き、活躍できる |
| 09 共生社会 | インクルーシブシティ東京は多様な個性が輝き更なる高みへ |
| 10 スタートアップ | イノベーションが次々と生まれ世界の変革と成長を東京が牽引 |
| 11 デジタル | 世界で最も情報技術を使い、便利で快適な「スマート東京」 |
| 12 國際金融 | サステナブルな未来を拓く世界の金融ハブ・東京へ飛躍 |
| 13 産業 | 次の成長産業を東京から発信し、世界の経済を力強く先導 |
| 14 観光 | 訪れるたびに新しい体験や発見がある、世界を惹きつける東京へ |
| 15 文化・エンタメ | 東京発の洗練された価値が世界中の人々を刺激し、心を潤す |
| 18 インフラ・交通 | 世界一のインフラが、人をつなぎ、暮らしを支える |
| 20 ゼロエミッション | 脱炭素社会を実現し、世界のネットゼロ達成に大きく貢献 |
| 21 都市の強靭化 | 災害の脅威から都民を守る世界で最も強靭な都市へ |
| 23 まちの安全・安心 | 犯罪、事故、火災等から都民の命と安全・安心な暮らしを守る |

2

都教育委員会の取組

- グローバル人材育成に関する資質・能力を4つのTARGETとして設定し、これらの資質・能力の育成を目指すためのモデルとして、東京型グローバル人材育成モデルを設定

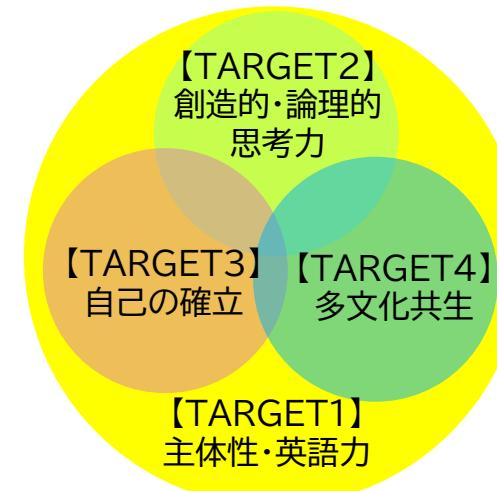
東京グローバル人材育成指針（令和4年3月）

- 各学校において、グローバル人材育成に向けた取組を推進していくための「ガイドライン」
 - 小・中・高等学校を通して育成したい資質・能力
 - 期待される子供たちの姿(行動指標)
 - グローバル人材育成の視点からの教科横断的な取組例
 - 中学校英語スピーキングテストやTOKYO ENGLISH CHANNELなど、授業等で活用できる東京都の施策



■ 4つのTARGETによる東京型グローバル人材育成モデルの設定

- 【TARGET1】 主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成
- 【TARGET2】 国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成
- 【TARGET3】 世界の中の一員としての自覚と自己の確立
- 【TARGET4】 多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成



【4つのTARGETのイメージ図】

□ 育成すべき資質・能力を示す4つのTARGETを連携させた教育を推進し、小学校から高等学校まで、英語教育や国際教育に関する施策を重層的に展開

東京型グローバル人材育成モデル

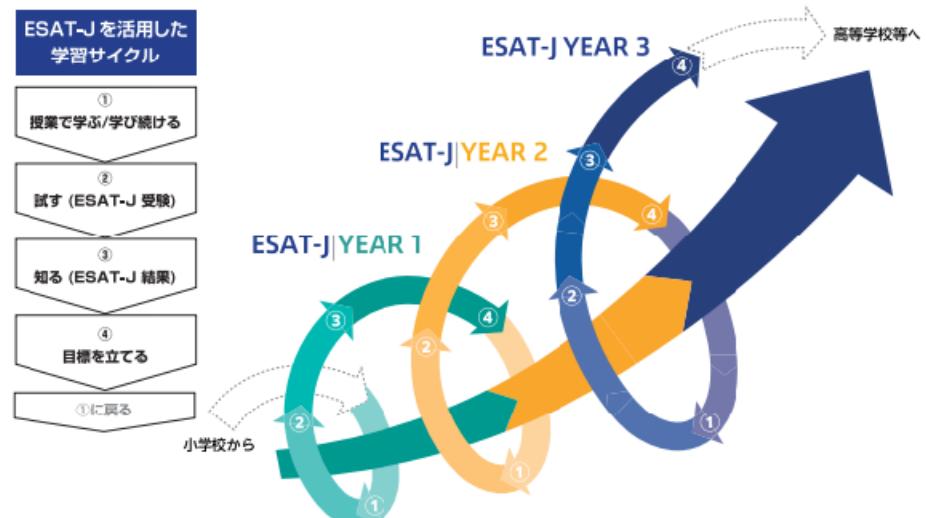


都教育委員会の取組（使える英語力の育成）

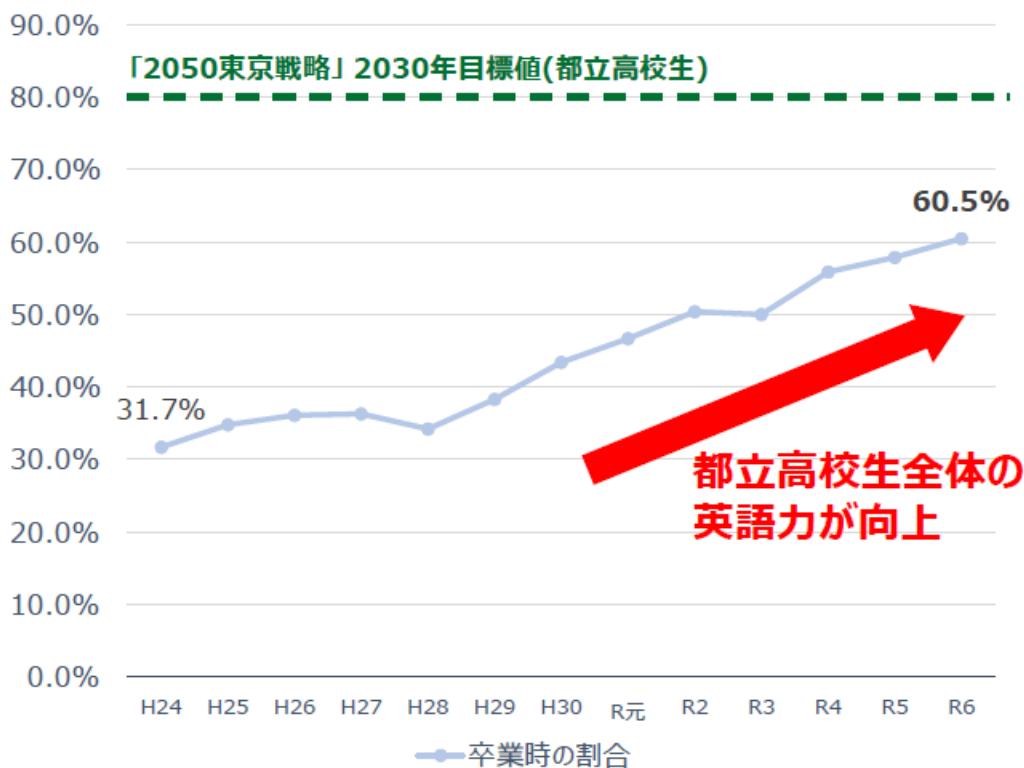
- 個々の生徒へのきめ細かい指導を展開するとともに、外国人指導者の効果的な活用や体験的に英語を使う機会の創出などにより実践的な英語力を育成

中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）

- 中学校の授業で学んだ英語で「どのくらい話せるようになったか」を測るためのスピーキングテスト
- 中学校1年生対象の「ESAT-J YEAR 1」、2年生対象の「ESAT-J YEAR 2」、3年生対象の「ESAT-J YEAR 3」を実施
ESAT-Jを通して現在の英語力を知り、結果を基に今後の目標を設定することで英語の「話すこと」の力を更に伸長



CEFR A2相当以上を取得している都立高校生の割合



都教育委員会の取組（グローバル人材の育成）

- 多様な価値観をもつ人々と協力・協働しながら課題を解決する力を身に付けるとともに、自らすすんで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚を醸成

国際交流の推進

- 海外高校生の受入(約1週間)
生きた国際交流の機会を創出することで、都立高校生の国際感覚を醸成
 - ・ 海外の生徒を都立高校に受け入れ、学校生活体験
 - ・ 「授業」や「特別活動・部活動」を通じた交流
- 東京都国際交流コンシェルジュ
国際交流を幅広く実施できるよう、大使館等との交流、海外の学校との交流に向けた相談対応、マッチング支援等、ワンストップでサポート
- 海外との学校間交流(姉妹校等)の拡大
海外の高校等との交流を推進するため学校の取組を支援
「現地又は国内での交流」「姉妹校提携」「オンライン交流」等
- 海外教育機関との連携
海外の教育委員会等と教育に関する覚書を締結し、都立高校等における国際交流をバックアップ

海外派遣の推進

- 次世代リーダー育成道場(約1年)
国内事前研修で様々なことを学び、その後、留学にチャレンジする都独自のプログラム
- 都立高校生の海外派遣(約1週間)
都独自プログラムとして、欧米、アジア、中東等へ都立高校生等を派遣し、現地高校、日本大使館、企業、文化施設等での交流活動を実施
- 教員の海外派遣(約1週間、約1か月、約1年半)
英語教授法やグローバル人材育成に向けた指導力等を育成するため、教員を海外の大学・大学院等の教育機関に派遣

海外大学等への進学支援

海外大学進学に向けた基本情報の提供や、保護者向け説明会などを実施するとともに、留学支援アドバイザー等により生徒一人一人に応じた支援を実施

□ 英語力強化のためのHOP、国際交流拡充のためのSTEP、海外派遣拡充のJUMPの各取組を経て、グローバル化する社会の中で「世界を視野に新しい時代を切り拓く人材」を育成

令和7年度の主な取組

HOP【英語力強化】

英語で話す機会を通して、英語力を高める



- TEP-CUP(英語プレゼンテーションコンテスト):身振りも交えたプレゼンテーション能力を伸長
- 英語でジョブチャレンジ:都立高校生が英語を活用する職場で仕事体験
- AIを活用した英語教育の充実:AI技術(Writing)を活用し、英文を「書く力」や「思考力」を育成



国際線搭乗カウンターでの仕事体験

STEP【国際交流拡充】

英語を用いて海外の人々と交流し、国際感覚を培う



- グローバルフレンドシッププログラム:海外生徒を受入れ、国内で直接交流する機会を創出
- 学校の国際交流推進:各校での独自の国際交流の取組を支援
- TOKYO ENGLISH CHANNEL:バーチャル留学等、オンラインイベントを開催



折り鶴を通じた生徒交流(トルコ)

JUMP【海外派遣拡充】

海外に羽ばたき、
培ってきた自らの力を發揮



- 高校生海外派遣(約1週間):海外で多様な文化に触れ国際的な感覚等を涵養
- 次世代リーダー育成道場(約1年間):ホームステイをしながら現地高校に通学
- 海外大学等進学支援:留学フェアや英語資格・検定試験対策講座等を実施

□ 都立高校の魅力を高めるうえで、ミネルバ大学のように東京への展開を目指す海外の大学と都立高校生との交流を促進するための対応は重要

ミネルバ大学との連携に関する包括協定（令和7年9月）

ミネルバ大学が令和7年9月から、東京で活動を開始

【協定の概要】

- (1) 世界的な教育機関との連携による教育の質の向上
- (2) 高校生・大学生の交流を通じた異文化理解の深化
- (3) 探究的な学びの充実と進路意識の向上

【連携内容】

- ・大学の教授陣によるオンライン講座
- ・学生による探究活動を支援する特別講座
- ・大学生と高校生の交流



制作を通じた交流



学生による自国紹介



ミネルバ大学生・都立高校生の意見交換

<ミネルバ大学>

- ・「世界で最も革新的な大学ランキング」
(国連機関)において4年連続1位を獲得
- ・100か国近い国々の学生
- ・授業は全てオンライン
 - + 世界4都市の生活体験
- ・全講義少人数アクティブラーニング
- ・学生が世界各地の拠点を移動しながら、各地の企業や行政、NPO、研究機関や行政と連携した学習プログラムを受ける



- 世界を舞台に活躍できる人材を育成するため、都立国際高校に国際バカロレアコースを設置(2015年)
- 英語による議論・討論の授業、探究型の授業など特別の教育課程を編成し、生徒は海外大学等への進学を実現

国際バカロレア教育の概要

○国際バカロレアの仕組み

国際バカロレア機構(スイス・ジュネーブ)から認定を受けた学校で、DP(ディプロマ・プログラム)課程を修了し、統一試験に合格した生徒に、海外大学への進学資格を付与する。

○DPのカリキュラムの概要

「知の理論」	多様性や国際理解を深めて偏見を正し論理的思考力を育成
「創造性・活動・奉仕」	経験や体験活動により社会性を獲得
「課題論文」	生徒が研究課題を設定して、自ら調査・研究して論文を作成

※上記に加え、理科、数学、外国語等6つの教科を学習

○DPの教育活動の特徴

高度な学習内容に触れながら、教育スタッフと生徒、生徒同士が双方向で議論や討論を行い、問題解決に向け、物事を多面的に分析する探究型の授業を行う。



DP認定校の広がり

	2015年	2025年
世界	2,914校	3,865校
日本	26校	75校
(うち1条校)	12校	47校



国際高校IBコースの状況

- ・規模:各学年6学級(定員240人)のうち、IBコース25人
- ・応募倍率:おおむね4~6倍程度(R4~7年度)
- ・IB資格取得率:ほぼ100%
- ・海外大学延合格者数:64人(R6卒業生)

(R6合格大学)

Imperial College London (イギリス・9位)
 University College London (イギリス・22位)
 University of Toronto (カナダ・21位)
 Carnegie Mellon University (アメリカ・24位)など
 ※○位は、世界大学ランキング2025による順位

都教育委員会の取組（デジタル人材の育成）

- デジタル技術の急速な進化や「東京都AI戦略」等を踏まえ、授業内・外において、デジタル人材の育成を推進

生成AIの利用環境の整備

- 20の研究校で作成してきた指導資料を全都立学校に共有
- 全都立学校に、利便性や安全性の高い生成AIの利活用環境を整備
- 今年度新たに教員が12教科・130の活用事例を作成



（あらかじめポスター画像を都立AIに読み込ませた上で）

A I：色づかいはいいですね。

文字の情報量で工夫したことはありますか？

生徒：見る人に端的に伝わるよう説明を減らした。

A I：なるほど。

他のポスターを見て参考にできそうなところは何ですか？

教科「情報」における指導体制の充実

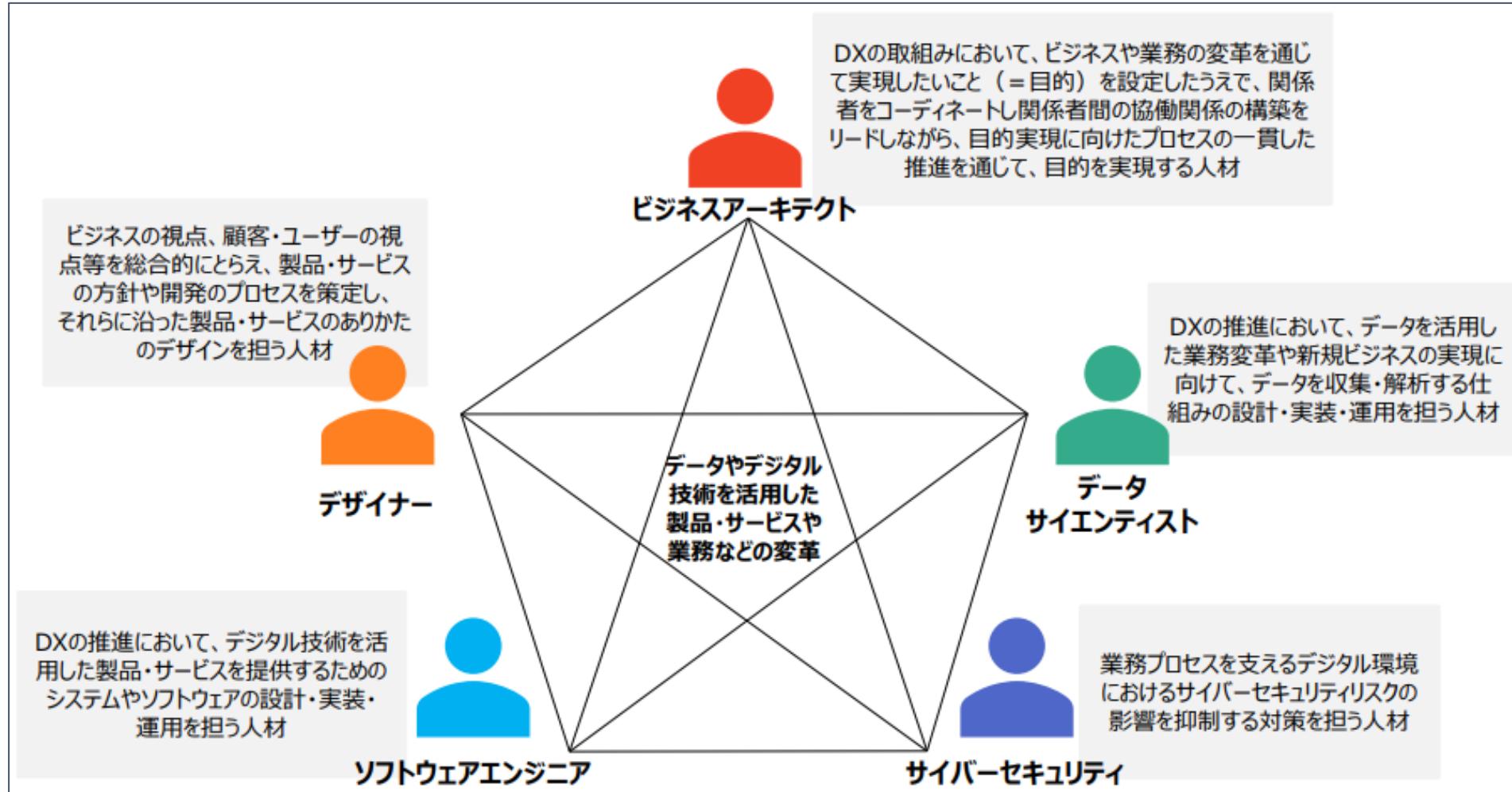
- 情報の発展的な内容を扱う教科「情報Ⅱ」の設置校率は、全国トップの約43%
- 「情報Ⅱ」の更なる設置拡大に向け、指導内容に関する教員研修を実施

アプリ開発イベントの実施

- 多くの子供たちがITの基本的なスキルであるプログラミングに興味関心を持てるようアプリ開発イベントを実施
 - ・ワークショップ(R7.6～R8.3開催)
 - ・ハッカソン(R7.8の4日間開催)
 - ・モバイルアプリコンテスト(R8.1表彰式開催予定)

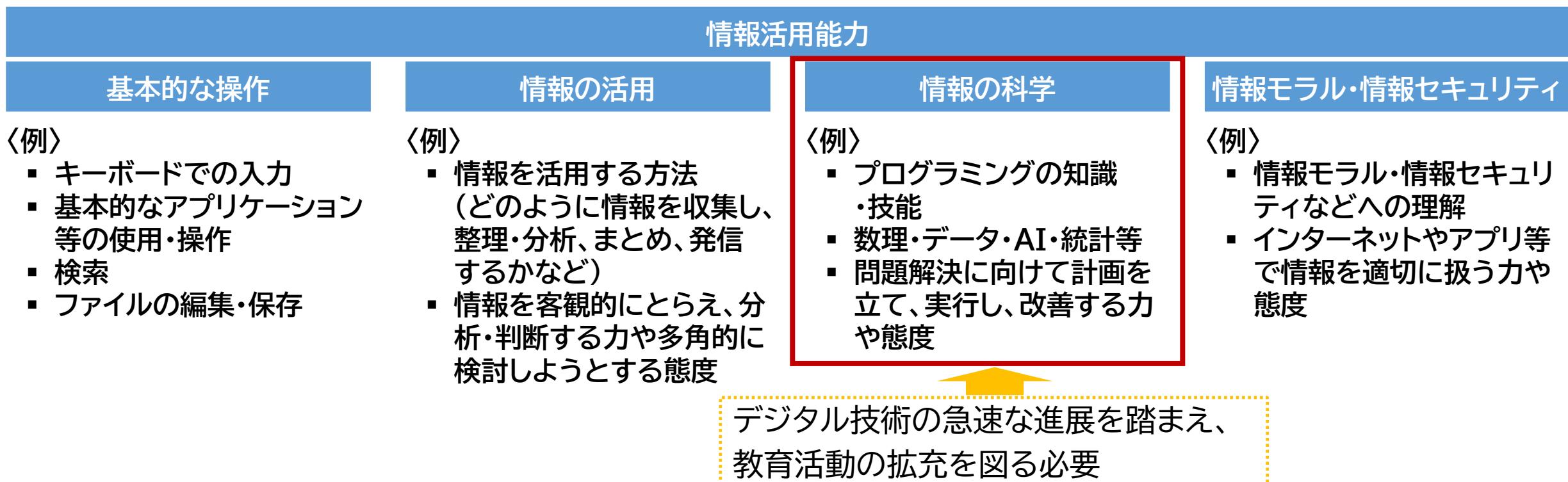


- 経済産業省は、DX推進に必要な5つの人材類型について、類型ごとにロール及び必要なスキルを定義した「DX推進スキル標準」を策定



□東京都学校教育情報化推進計画(令和6年3月)に基づき、情報活用能力の育成を推進

- 情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結びつきとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力
- 学習指導要領においては、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け
- 都教育委員会では、情報活用能力育成の観点等をまとめた「情報活用能力 #東京モデル」を作成し、発達段階を踏まえた資質・能力を計画的に育成



□ 全都立学校において生成AIの利用環境を整備

- 2022年末のChatGPT公開以降、生成AIの急速な普及が学校教育にも波及
- 国は、生成AIのメリット・デメリット双方に注目しつつ早期に対応を開始
- 東京都教育委員会は、**他の自治体に先駆けて研究を開始**。研究を生かして2025年5月から**都立学校全校に生成AI環境を整備**

研究成果を基に教材等を整備

- **都立学校生成AI利活用ガイドライン**
 - ・生成AIの利用ルールや活用方針を規定
- **AIリテラシーを育成するための教材等**
 - ・生成AIの特性や活用方法など、効果的な授業を開拓するための教材・指導案を作成

都立学校専用の生成AI環境の特徴

- **都立学校の専用環境**
 - ・児童・生徒・教員約16万人が日常的に利用可
- **安心・安全な環境**
 - ・入力内容はAIに再学習されない。不適切なやり取りはフィルタリングで未然防止
- **教育利用に適した機能**
 - ・思考を深めるための専用メニューなどを各校が独自に作成可能

□子供たちの思考力等を高めるため、各学校が創意工夫を凝らして活用メニューを作成



【物基】討論_仕事とエネルギー

討論の相手になってくれます。優しいです。問は1と2の二つがあります。

思考深化型

757-5545



産業革命と世界経済の変化

高校2年生の「世界史」授業で扱う「産業革命と世界経済の変化」の単元の復習…

知識定着型

323-2283



育てた記録をふりかえろう！農作物の観察日記

このプロンプトは、作物の観察・記録・ふりかえりを通して、育てる体験を言…

口頭試問補助型

1820



所見下書きサポート

所見の下書き作成をサポートします。

文書推敲型

391-8217



総合型選抜の面接練習v3

AI面接官があなたと面接し、面接内容の評価（観点毎に5点満点）とフィードバ…

ロールプレイ型

219-1890



【武蔵丘】文化祭 出し物相談くん

文化祭の出し物を一緒に考えてくれます。

アイディア壁打ち型



※ 採点補助型 も多い
(英作文、小論文、志願書添削など)

総メニュー数
1,908

特に有用なメニューを
都立学校全校で共有（約185）

□授業内・外において情報教育を推進

授業内

小学校	中学校	高等学校	
算数・理科・総合等	技術・家庭(技術分野)	情報Ⅰ(必修・2単位) ⇒ 全校で設置	情報Ⅱ(選択・2単位) ⇒ 一部の学校で設置
プログラミング体験	双方向プログラミング 情報モラル	(1)情報社会の問題解決 (2)コミュニケーションと情報デザイン (3)コンピュータとプログラミング (4)情報通信ネットワークとデータの活用	(1)情報社会の進展と情報技術 (2)コミュニケーションとコンテンツ (3)情報システムとプログラミング (4)情報とデータサイエンス (5)情報と情報技術を活用した問題発見 ・解決の探究

- 「情報Ⅱ」の設置校率は全国トップの約43%
- 「情報Ⅱ」の更なる設置拡大に向け、指導内容に関する教員研修を実施

将来DX推進人材になるために必須

○次期学習指導要領の改訂に向けて(中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」より)

- ・情報活用能力の抜本的向上
- ・小中高を通じた体系统的な教育内容の充実
- ・技術の進展に伴い、地域人材や企業等との連携の可能性も検討

指導内容の更なる高度化へ

□授業内・外において情報教育を推進

授業外

- 多くの子供たちがITの基本的なスキルであるプログラミングに興味関心を持てるよう、**アプリ開発イベントを実施**

- ・**第1弾「ワークショップ」**

⇒ アプリ制作に必要なプログラミングスキルを学習。R8年度から生成AIをアイデア出し等に活用

- ・**第2弾「ハッカソン」**

⇒ 生成AIも活用しながらグループでアプリを企画・開発し、表彰を実施。よりレベルの高い内容のアプリ開発を学習

- ・**第3弾「モバイルアプリコンテスト」**

⇒ 身近な問題を解決するために各自で開発したモバイルアプリを募集し、表彰



- 科学技術分野に高い理解力と強い取組意欲をもつ生徒を育成するため、理数教育重点校、理数研究校などの学校を指定し、観察や実験など体験的・問題解決的学習を充実させた授業やカリキュラムの導入や、大学や研究機関等と連携及び外部人材の活用を通して、高度な理数教育を行う教育プログラムの構築を進め、東京都の理数教育をけん引

文部科学省事業

- スーパーサイエンスハイスクール(SSH)【都立高校の指定8校／全国230校】

先進的な理数系教育や文理融合領域に関する研究開発を実施している高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に指定し支援することを通じて、将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成を図る。

都教育委員会事業

- 東京サイエンスハイスクール【3校】

生徒の理数分野等の興味・関心を更に向上させ、Society5.0に対応し、変化の激しい現代社会で活躍するとともに、国際競争に勝ち抜くことができる人材の育成を推進する。

- SIP(Scientific Inquiry Program)拠点校【4校】

理数分野に興味・関心のある生徒に探究活動の機会の提供と継続的な指導を行い、生徒の意欲の向上と進路実現

- 理数研究校【24校】

理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を拡大するとともに、優れた資質・能力をもつ生徒の発掘とその才能を伸ばす

- チーム・メディカル【1校】

医学部への進学を希望する生徒対象に、総合的な進路指導のほか、病院の職場見学や医療関係者との交流、医学部の大学教授による模擬授業など、医療への理解を深め、医師になる志を育む3年間一貫した育成プログラムを実施



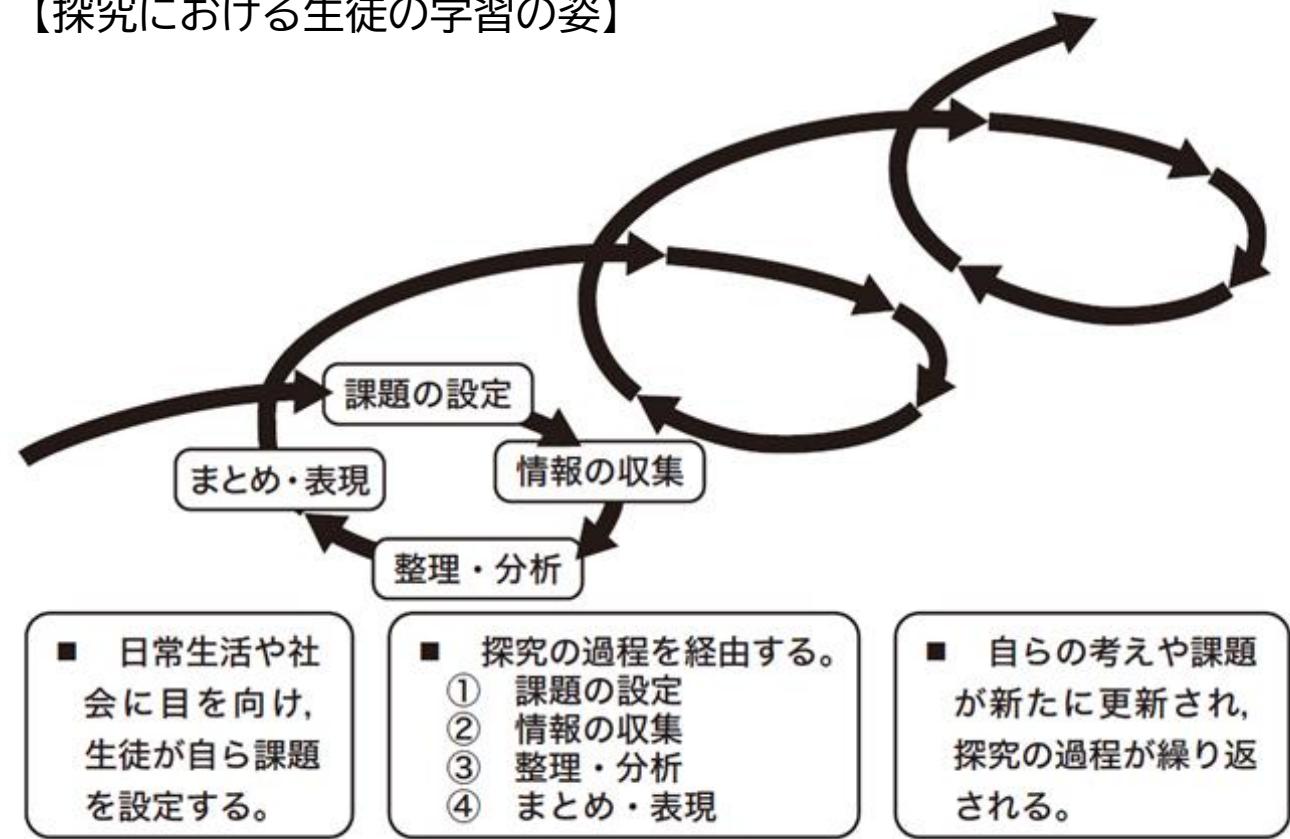
- Tokyoサイエンスフェア

科学分野に興味・関心をもつ児童・生徒の裾野を広げることを目的に「科学の甲子園東京都大会」と「表彰式及び研究発表会」を実施

- 社会課題の発見・解決や新たな価値の創造に向け、生徒が自ら考え行動できるようにすることが重要
- 「総合的な探究の時間」等で、生徒、学校、地域の実態に応じた探究課題を設定して、探究的な学びを推進

探究的な学びの概要

【探究における生徒の学習の姿】



○ 探究学習の特徴(目標設定)

- (1) 探究の見方・考え方を働かせる
- (2) 横断的・総合的な学習を行う
- (3) 自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく

○ 探究課題の例

- a 横断的・総合的な課題(現代的な諸課題)
例:国際理解「外国人の生活者とその人たちの多様な価値観」
- b 地域や学校の特色に応じた課題
例:町づくり「地域活性化に向けた特色ある取組」
- c 生徒の興味・関心に基づく課題
例:文化の創造「文化や流行の創造や表現」
- d 職業や自己の進路に関する課題
例:職業「職業の選択と社会貢献及び自己表現」

- 生徒個人や学校単位で参加できる探究的な学習方法の定着に向けたプログラムを実施
- 令和7年度中に全都立高校等が Type 2～Type 4 のいずれかの活動を行い、都立全体の探究の充実を推進

都教育委員会 が実施・提供するプログラム

Type1【生徒が個人で参加】

- 企業連携型
- 大学連携型
- 東京の教育資源活用型 等

Type2【学校が選択して実施】

- 探究<通年>プログラム
- 探究<短期>プログラム
(探究の概念を理解し探究のプロセスを経験する企画の提供)



学校 が計画・実施するプログラム

Type3【研究指定校等】

- 東京IBLハイスクール指定校
- 海外探究フィールドワーク指定校
- 高大連携教育プログラム
- 理数教育関連指定校 等

Type4【学校独自プログラム】

- 専門高校の新たな学びによる授業改善サポート 等

全校が一堂に会して「探究」の取組を発表し、学び合うイベントを開催 **TIPS Forum 2025**

【期待される効果】

- ① 現実社会の諸問題に対して自ら課題を発見し、主体的に解決を図り、研究成果を発信して社会に変革をもたらす活動に取り組むとともに、卒業後にイノベーションを起こす人材の育成
- ② 探究を通して都立高校を結び、都立高校同士の学びによる「チーム都立」を形成
→ 都立高校の魅力と価値を向上



3

専門学科高校の取組

- 専門学科高校は、社会の即戦力となる専門技術を学ぶ職業学科高校と特定の教科の学習を深める高校に分かれる。
- 普通科の一部の科目を減らして、全体の約1／3の科目を専門教育に必要な科目に変えて、教育課程を編成

普通科と専門学科の教育課程の違い

各学校が定める卒業までに履修させる単位数(※85～94単位)

学習指導要領で定める卒業までに修得を要する単位数 74単位

必履修教科・科目の単位数 35単位～

(参考例)時間割と単位数の関係

	月	火	水	木	金
1	国語				
2	数学				
3	英語				
4	理科				
5	体育				
6	芸術				

週5日×6コマ＝30単位／年

◎専門学科高校
普通科の教科・科目の一部を減じて、
専門教科・科目を最低25単位以上設置

工業科	機械工作やロボット製作、電気工事や製図・測量などの実習
商業科	簿記やコンピュータなど専門分野の学習
農業科	野菜・草花の栽培技術、家畜の飼育技術などの実習

都の専門学科学校

専門学科高校 (50校)

職業学科	校数	特定教科	校数
農業科	5	理数科	2
工業科	16	国際科	1
科学技術科	2	体育科	2
産業科	2	芸術科	1
ビジネス科	7		
ビジネス コミュニケーション科	2		
水産科	1		
家庭科	4		
福祉科	2		
併合科	3		

工業

商業

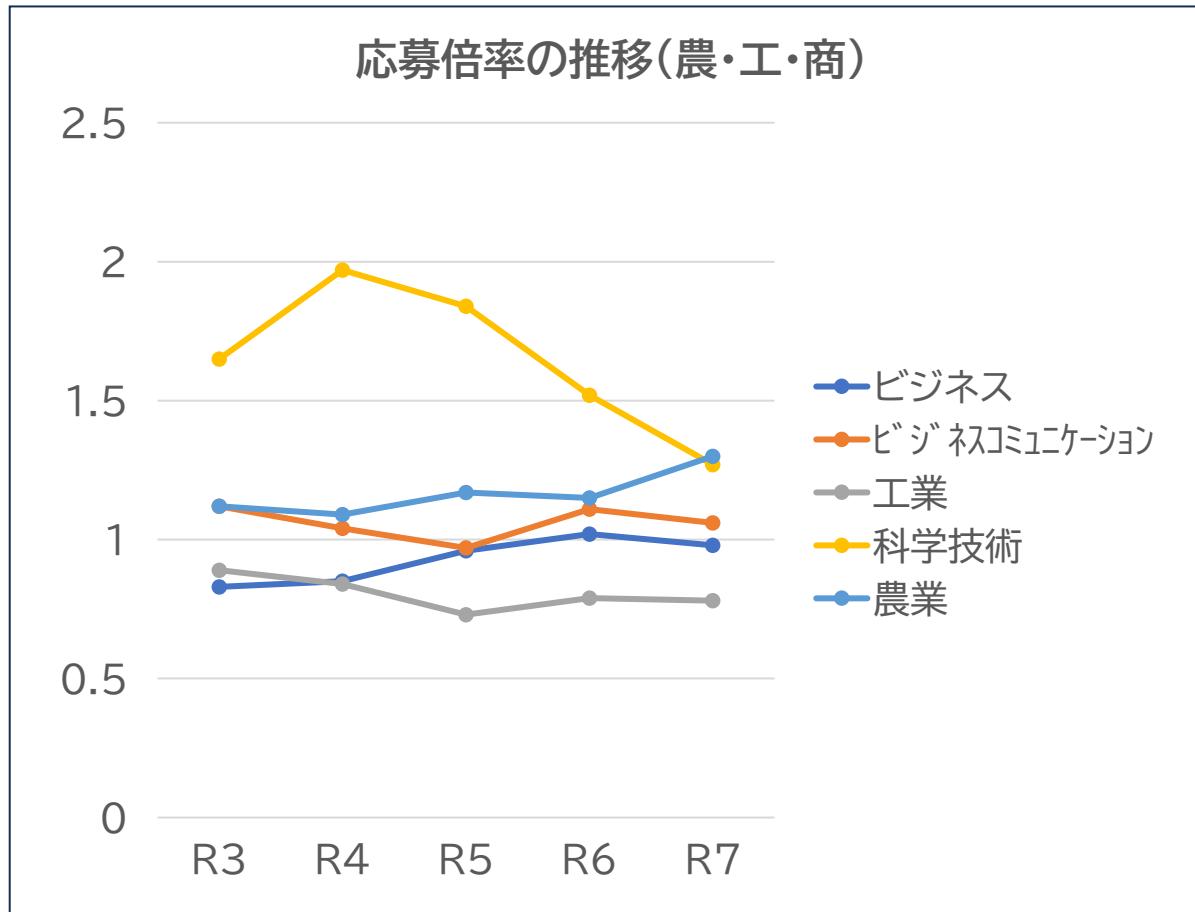
専門学科高校（全日制課程50校）の一覧

(令和7年4月1日時点)

農業科 5校	工業科 16校	科学技術科 2校	産業科 2校
農業分野のスペシャリストを育成	工業各分野で活躍できる技術者を育成(エンカレッジスクール2校)	実験や研究を通じて科学技術を学び、理系大学などへの進学を目指す	広い視野を持った起業家や自営業の後継者を育成
ビジネス科 7校	ビジネスコミュニケーション科2校	海洋国際科(水産科) 1校	家庭科 4校
「ビジネスを考え、動かし、変えていく」人材を育成	英語とビジネスの学習を重視し、文系大学などへの進学を目指す	海洋課題に対応できる人材を育成	調理、保育、服飾など生活産業のスペシャリストを育成
福祉科 2校	創造理数科 2校	国際科 1校	体育科 2校
社会の援助者として行動できる人材を育成	理数系分野の素養育成に重点を置きながら、新しい価値を生み出す人材を育成	国際社会で活躍できる人材を育成	スポーツ・保健体育に関する実践者・指導者として活躍する人材を育成
芸術科 1校	併合科 3校		
芸術の発展に寄与する人材を育成	農業科と家政科など二つの学科を一つの学級に編制した学校	※2つの学科を設置している学校はそれぞれの学科の校数に含んでいる。	

□ 専門学科高校は、分野ごとに応募倍率に差があり、理数科、国際科、芸術科など高倍率を維持する一方で、従来型の工業科、商業科については、倍率が低い傾向

応募倍率（第一次・分割前期募集）

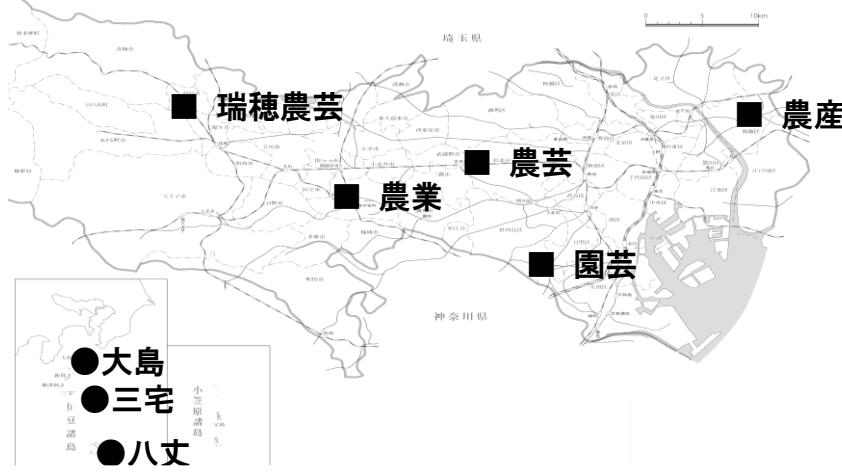


	R3	R4	R5	R6	R7
農業	1.12	1.09	1.17	1.15	1.30
工業	0.89	0.84	0.73	0.79	0.78
科学技術	1.65	1.97	1.84	1.52	1.27
産業	1.24	1.13	1.01	1.07	0.97
ビジネス	0.83	0.85	0.96	1.02	0.98
ビジネスコミュニケーション	1.12	1.04	0.97	1.11	1.06
水産	0.75	1.33	0.67	1.07	1.10
家庭	1.25	0.64	0.99	1.00	0.87
福祉	1.18	0.62	0.61	0.26	0.64
理数			4.59	3.66	2.49
国際	1.92	2.36	2.45	2.19	1.76
体育	1.31	0.96	1.35	1.13	1.63
芸術	1.99	2.16	1.72	1.96	1.79
併合	0.09	0.16	0.21	0.17	0.10

□ 都立高校の農業科では、園芸・畜産・食品・環境の4分野を中心に、地域と連携した実習を通じて、持続可能な農業や食の安全を担う人材を育成

農業高校の概要

配置(全日制)状況(農業科■、併合科●)



園芸高校

園芸科・食品科・動物科

瑞穂農芸高校

園芸科学科・畜産学科・食品科

三宅高校

農業科

農芸高校

・園芸科学科・食品科学科・緑地環境科

農産高校

園芸デザイン科・食品科

八丈高校

園芸科

農業高校

・都市園芸科・食品学科・緑地計画科

農産高校

花壇や庭園などの製作や、都市の緑化などについて学ぶ

大島高校

農林科

○園芸系(園芸科、都市園芸科、園芸科学科、園芸デザイン科、農芸科、農産科)

野菜・草花などの栽培技術や植物バイオテクノロジー、スマート農業などについて学ぶ

【農業実習】



○畜産・動物系(畜産科学科、動物科)

乳牛やブタ、ニワトリなどの家畜、犬やウサギなどの動物の飼育技術などについて学ぶ

【乳牛へのエサやり】



○食品系(食品科、食品科学科、食品化学科)

パンやジャム、ソーセージなどの食品製造の技術や食品分析・衛生検査の方法などについて学ぶ

【製麵実習】



○環境系(緑地計画科、緑地環境科)

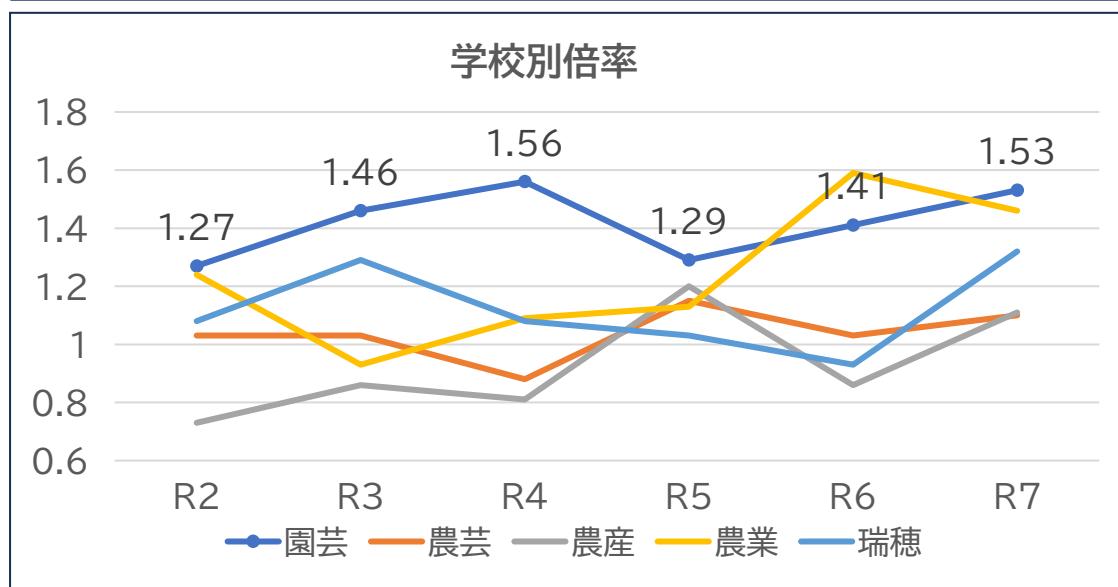
花壇や庭園などの製作や、都市の緑化などについて学ぶ

【庭園作り実習】

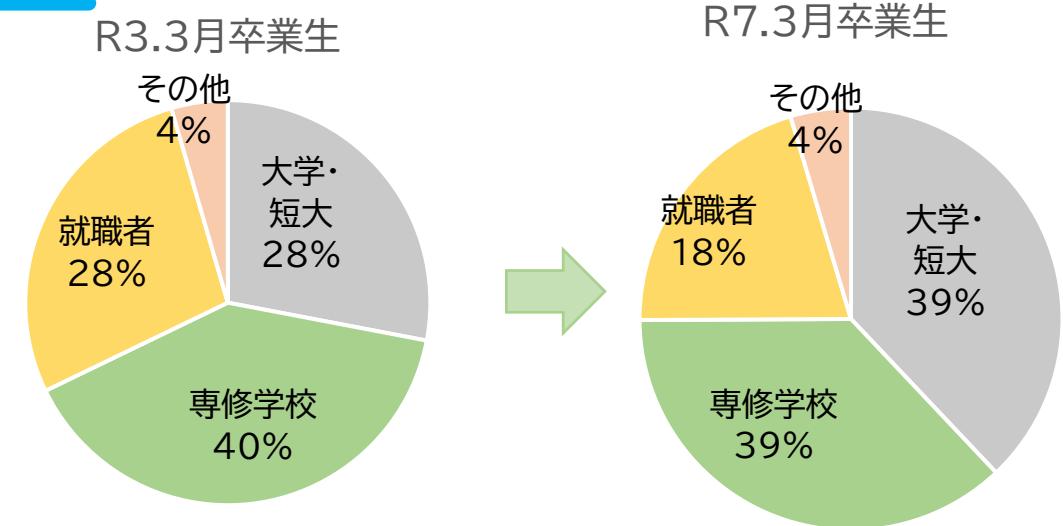


- 入学者選抜では、農業科全体で1倍を上回っており、職業学科の中では高い倍率を維持
- 進路実績では、就職者は減少、大学・短大への進学者が増加傾向

入学者選抜状況



進路実績



○ 主な進路先(R7.3卒業生)

大学・短大	就職
帯広畜産大学・北里大学・女子栄養大学・日本大学・東京農業大学 他	独立行政法人農林水産消費安全技術センター・(株)山田造園・(株)アンドウ・住友林業緑化(株)・農業生産法人(有)バイオ 他
専修学校等	
吉祥寺二葉栄養調理専門学校・辻調理師専門学校・香川調理製菓専門学校・国際動物専門学校 他	

□ これまで、GAP認証の取得や企業連携等に取り組んでおり、今後、栽培・飼育・食品製造などの「場」にSTEAM要素を加えることで、生徒が実体験に基づいて思考を深める学びが可能

これまでの取組

➢ GAP認証の取得と教育活動への展開

- ・生徒・学生がGAPを学び、自ら実践することで、農業生産技術の習得に加えて、農業経営について学習する機会を提供、将来の東京の農業や関連産業を支える人材(農業マイスター)を育成
- ・農業科全校において「JGAP」及び「東京都GAP」を取得

GAP(Good Agricultural Practice)

農業生産工程管理のこと。食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のこと

➢ 企業と連携した学習の充実

- ・農業や食品に関する商品等の企画や開発、製造や加工、販売等の一連の取組を学ぶ機会を拡大
- ・GAPやHACCP、スマート農業等の食の安全や安心に関する最新の研究動向や実践事例等についても企業との連携により学ぶ機会を充実

HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)

危害分析重要管理点のこと。食品の安全性確保のため、微生物による汚染、金属の混入等を予測し、特に重要な工程を監視・記録する工程管理の手法のこと

スマート農業×STEAM学習

栽培・飼育・食品製造などの「場」にSTEAM要素を加えることで、実体験に基づいて思考を深める学びが可能

◆園芸高校(WAGRIとセンサー機器の活用)

温室・土壌の温度と日射量の相関を分析するなど、探究的な学びを展開し、スマート農業を実践

※WAGRI:気象や農地、収量予測など農業に役立つデータやプログラムを提供する公的なクラウドサービス



◆農業高校(センシング技術を駆使)

気象センサーから得られたデータを栽培管理に活用し、スマート農業を実践

神代農場に気象センサーを設置し、7つの気象データ(気温、湿度、照度、降雨量、風速、風向き、気圧)を5分おきにクラウドへ送信。

イネやワサビの栽培管理にデータ活用



- 都立高校の工業科では、機械・電気・建築など多様な分野で実習を重視し、地域産業と連携した教育を通じて、Society5.0時代に対応する実践的技術者を育成

都立工業系高校の概要

○ 学校概要

工業科 : 18校(全日制 16校、定時制単独 2校)

科学技術科: 2校(全日制 2校)

産業科 : 2校(全日制 2校)

○ 配置(全日制)状況(工業科▲ 科学技術科▶ 産業科■)

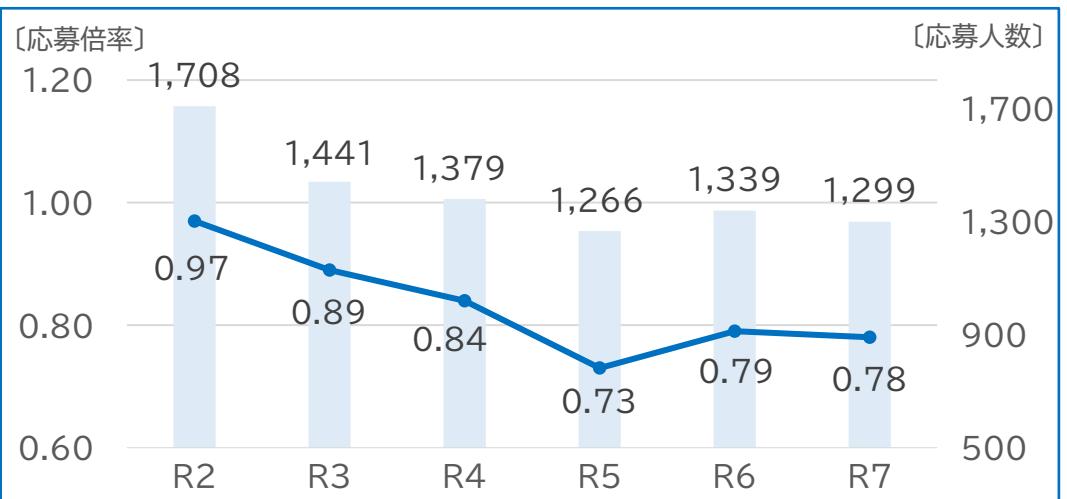


○ 学科一覧(全日制)

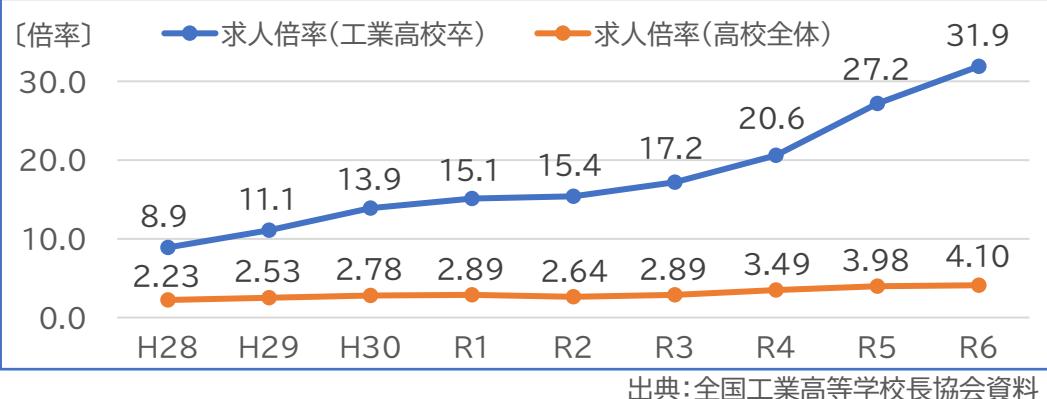
系統	学校名	全日制
工業	六郷工科	ものづくり工学
	総合工科	機械・自動車、電気・情報デザイン、建築・都市工学
	中野工科	食品サイエンス
	杉並工科	IT・環境
	練馬工科	キャリア技術
	工芸	マシンクラフト、アートクラフト、インテリア、デザイン、グラフィックアーツ
	北豊島工科	都市防災技術
	蔵前工科	機械、電気、建築、設備工業
	荒川工科	電気、電子、情報技術
	足立工科	総合技術
	墨田工科	機械、自動車、電機、建築
	葛西工科	機械、電子、建築、デュアルシステム
科学技術	町田工科	総合情報
	多摩工科	機械、電気、環境化学、デュアルシステム
産業	田無工科	機械、建築、都市工学
	府中工科	機械、工業技術、電気、情報技術
	科学技術	科学技術
産業	多摩科学技術	科学技術
	橋	産業
産業	八王子桑志	産業

- 入学者選抜では、令和5年度を底に一定の改善は見られたが、令和7年度は微減
- 進路実績では、約半数の生徒が就職しており、就職先では建設業、製造業が多い

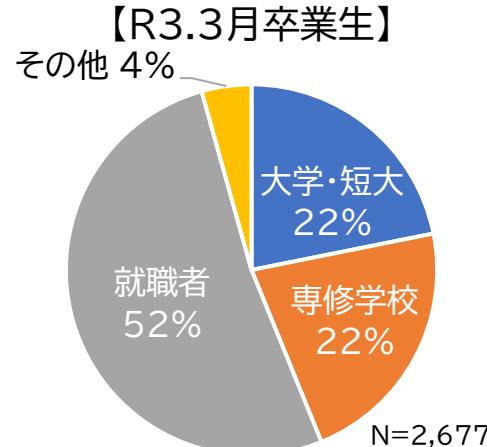
入学者選抜の状況(工業科全日制16校・一次募集)



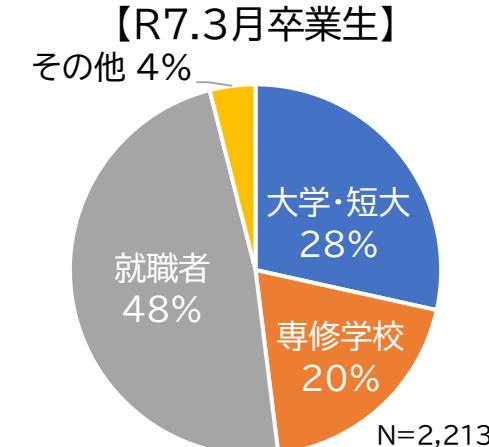
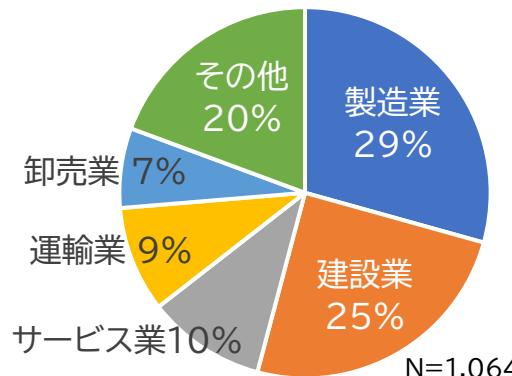
(参考)全国の高卒求人倍率の推移



進路実績



就職先の状況



主な進路先

進学先	就職先
東京都立大学・電気通信大学・東京理科大学・芝浦工業大学・工学院大学・東京電機大学・東京工科大学・拓殖大学・ものつくり大学・東京芸術大学・多摩美術大学・日本大学・武蔵野美術大学・女子美術大学 他	トヨタ・日産・京王電鉄・東京都交通局・東京地下鉄・東芝エレベーター・日立製作所・住友重機械工業・京王建設・東京電力・大和ハウス工業・一条工務店・鹿島建設・関電工・富士電機・三菱重工・多摩信用金庫 他

□「Next Kogyo START Project」(令和4年2月)を策定し、高度IT社会において、東京の成長を支える魅力ある工業高校を実現するため、技術革新やDX等に対応できる人材を育成し、東京の成長を支えるDX人材等の裾野を拡大

工科高校改革の主な内容

○ 先進的な学科へ改編

産業界における技術革新やDXの推進などに向け、先進的な学科へと発展的にリニューアル

中野工科 : 食品サイエンス科(R6)
 北豊島工科 : 都市防災技術科(R6)
 杉並工科 : IT・環境科(R6)
 六郷工科 : ものづくり工学科(R7)

○ 発展的なIT学習

IT企業等との連携などにより、IT企業や産業界各分野でDXを担うことができるIT人材の素地を育成

◆TOKYO P-TECH

- ・工科高校3年間と専門学校2年間の接続を図り、IT企業の実務家等からの支援により、IT人材の育成を目指す教育プログラム
- ・町田工科、荒川工科、府中工科で導入

○ 先端技術研究事業

工科高校教員が先端的な技術や考え方を有する企業等を視察し、意見交換などを実施

○ ものづくり技術に加え、デジタルスキルの習得など、「工科高校」の魅力を一層強化

◆資格取得支援制度の創設

- ・受験料及び試験対策経費を1/2補助
- ・対象約150種

◆デジタルスキル習得支援

- ・プログラミング講座
- ・ITパスポート講座
- ・夏季集中講座

◆グローバルスキル習得支援

- ・大学進学に有効な英検の取得講座

○ 工科高校の魅力を発信するイベントを開催し、積極的なPRを実施

◆都立工科高校ドリーム・フェスタの開催

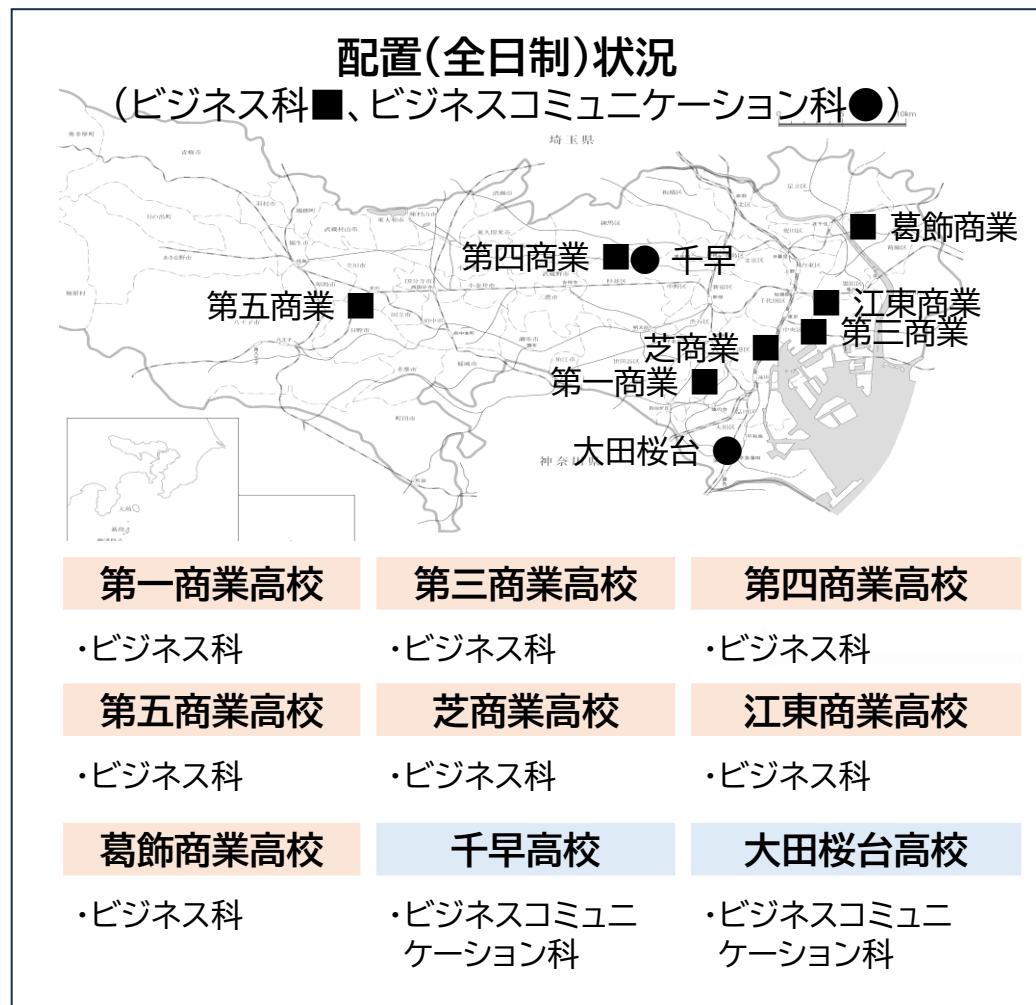
- ・工科高校が一堂に会し魅力を発信
- ・中学生が志望校を探す夏休みに開催
- ・R7来場者数 約5,000人



(イベントの様子)

□ 都立高校の商業科は、実践的なビジネス教育を通じて、簿記・情報処理・マーケティングなどの専門知識を習得し、社会で即戦力となる人材を育成

商業高校の概要



○ビジネス科

- ビジネスで活躍できる人材の育成
 - ・ビジネスについて専門的に学ぶ
 - ・簿記・会計に加え、マーケティングなどの授業を通じて、ビジネスに関する多角的な知識を身に着ける
- 資格取得支援が充実
 - ・簿記・会計・情報処理などの検定に対応した授業が多く、資格取得に有利
- 実習を通じた課題解決力の育成
 - ・企業や地域と連携し、実際のビジネス現場を体験する「実学」を重視



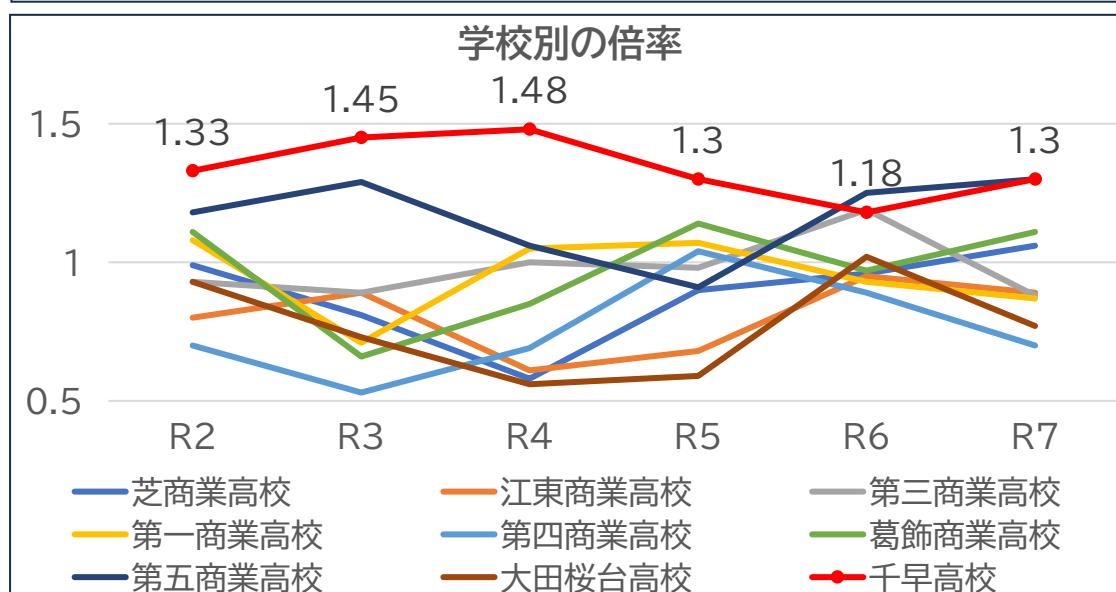
(総合実践の授業)

○ビジネスコミュニケーション科

- 実践的な英語コミュニケーションスキルの育成
 - ・英語とビジネスの学習に重点を置き、大学卒業後の将来を考える進学型の専門学科
 - ・多くの英語授業時間を確保し、ネイティブ教員による少人数授業や多読・発表を通じて実践的な語学力を身に着ける

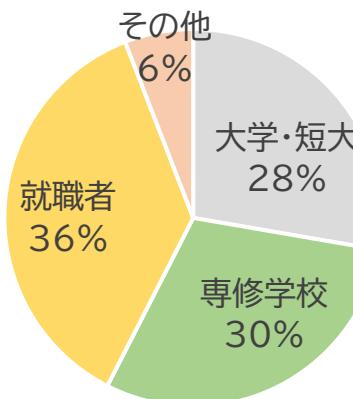
- 入学者選抜では、商業科全体として、1倍弱で横ばい。
- 進路実績では、就職者は減少、大学・短大への進学者が増加傾向

入学者選抜状況

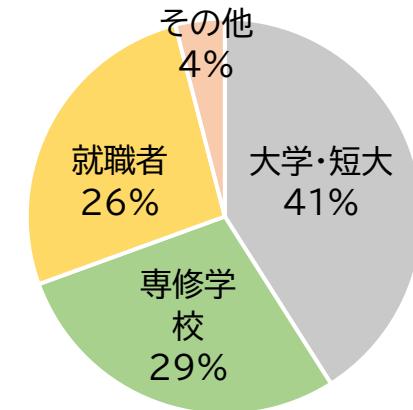


進路実績

R3年3月卒業生



R7年3月卒業生



○ 主な進路先(R7.3卒業生)

大学・短大	就職
高知大学・明治大学・立教大学・明治学院大学・武蔵大学・駒澤大学・専修大学・日本大学 他	東京国税局・東海東京ファイナンシャル・ホールディングス(株)・(株)DNPコアライズ・TOPPANエッジ(株)・(株)西武信用金庫・(株)世田谷信用金庫・東京水道(株) 他
専修学校等	
大原情報ビジネス公務員専門学校・専門学校東京医療学院・早稲田速記医療福祉専門学校 他	

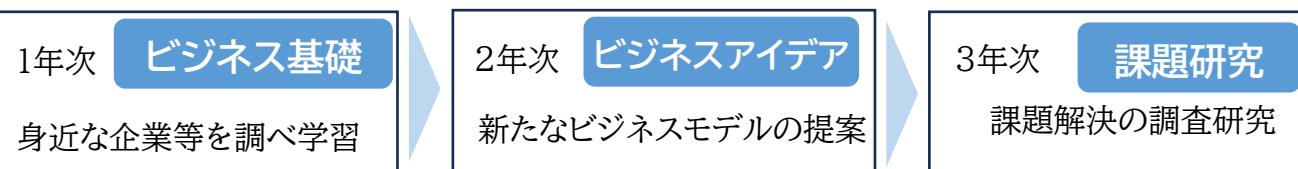
□産業界のニーズを踏まえ、ビジネスを考え、動かし、変えていくことができる生徒を育成するため、全ての学科を「ビジネス科」に改編し、ビジネスを実地に学ぶ機会を拡充（平成29年2月 商業教育検討委員会報告書）

【商業教育の方向性】

生徒像	企業の経営・財務活動等を分析できる生徒、 新たなビジネスを提案・情報発信 できる生徒
商業高校の姿	企業等と連携し、生徒が意欲的に学習 できる学校、地域経済を支える中核人材を育成する学校
方向性	地域の資源を活用した商品開発等を通じて、ビジネスの諸活動を実地に学ぶ機会を拡充 資格取得等による知識・技術の習得に加え、創造的な能力と実践的な態度を育成

【具体的な取組】○商業科をビジネス科に改編(平成30年度～)

全日制全7校で、3年間を一貫して**ビジネスの諸活動を実地に学ぶ**機会を提供



補助教材
「東京のビジネス」を開発



都立商業高校ビジネス
アイデア実践報告会

東京都生徒商業研究発
表大会 等に参加

ビジネスを実地に学ぶ実践例

◆芝商業(模擬株式会社芝翔の取組 等)

JR東日本の複合商業施設「ウォーターズ竹芝」の水辺を活かしたまちづくりに参画
ヤフー株式会社との連携でビジネスアイデアを実施 等

◆第五商業(国立ブランド価値向上の起業家教育 等)

国立駅や一橋大学の学生運営NPOと連携し地域課題解決の取組
地元ベーカリーと共同開発したフルーツサンドを販売 等

◆第一商業(渋谷を様々な教科の視点で科学する 等)

商工会議所と連携したビジネスやマーケティングを実施
渋谷区SDGs協会と連携し課題解決型学習を展開
東急株式会社と協働し渋谷再開発ミッション挑戦 等

◆千早高校(千早ビジネスプロジェクト 等)

大学教授等によるビジネスの特別授業やセミナーを開講
ベトナムビジネススタディツアーでは現地起業家や大学教授と協働し、英語によるPBL型研修を実施 等

今後の専門学科高校

□ 専門学科(特に職業学科)高校は、働くために必要な知識や実践的技術を学び、「卒業後の即戦力」を輩出して地域産業を支える役割を担ってきた。今後、未来の社会で求められる資質・能力の変化を踏まえて、どのような人材の育成に取り組むべきか。

これからの社会の中で求められる資質・能力の変化

○産業構造や大学進学率の変化

- ・第一次産業・第二次産業 ⇒ 第三次産業(経済の7割以上を占める)
- ・男女ともに進学率は上昇傾向

○デジタル人材等の不足

- ・大半の企業でデジタル人材が不足、世界デジタル競争力ランキング31位
- ・特に、人材知識のスコア、デジタル知識のスコアが低い
- ・2040年の労働需給のミスマッチ、【過剰】事務職員 + 214万人
【不足】AI・ロボット等の活用人材△326万人、生産工程△281万人

○グローバル化の加速

- ・世界人材ランキング40位、語学力は過去最低の67位



東京の目指す都市像
(2050年代ビジョン)
に資する人材の育成

大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校

➤ グローバルビジネス科

- H24開校、大阪の新産業創造を担い、起業の精神にあふれ、国際ビジネス社会で活躍する高度な専門性を備えたビジネススペシャリストを育成
- 高校・大学7年間の「高大接続」教育
連携大学への特別入学枠制度で進学
- 高大接続科目は、1年生「ビジネス基礎」
2年生「ビジネス・マネジメント」
3年生「グローバル経済」の3科目9単位
- 海外姉妹校との交流や語学研修など



(オリジナル商品開発)

市立札幌旭丘高等学校

➤ 数理データサイエンス科

- 進学重視型単位制高校、R4に新学科設置
SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)
- 理数分野を中心とした幅広い教養(STEAM 教育)と情報活用能力を併せ持つ人材を育成
- 数学・理科を基盤に、1年次にデータサイエンス基礎、2年次に研究活動、3年次に研究論文発表など、校外学習も含めて探究的に学ぶ
- アメリカ、タイ、韓国と姉妹校提携



(研究報告をまとめる様子)

山形県立酒田光陵高等学校

➤ 4つの高校を統合、普・工・商に加え情報科を新設

- 総合選択制を導入、進路・興味関心に応じて、2年次は週6時間、3年次は週8~10時間、共通・専門の50以上の科目から選択可能
- 情報科は、「情報テクノロジー」「情報システム」「情報コンテンツ」の3分野について学び、情報に関する幅広い知識と技術を習得
- IT企業・大学と連携した授業や、3DCGや映像編集が可能な最先端の設備などを導入



(マルチメディア編集室)

鳥取県立倉吉農業高等学校

➤ 「そうのうDXラボ」を拠点とした農業DX

- R6~DXハイスクール、スマート農業(ロボット田植え機、ドローンによる農薬散布など)に加え、高性能PC・カメラ、3Dプリンタなど、最先端の情報機器を整備した「そうのうDXラボ」を設置
- 地元の農家、企業、官公庁、大学等と繋がり、リモート制御やプログラミングの技術を身に付け、農業に関する課題を探究



(VRヘッドセット体験)

- メタバース空間を利用した生産物の販売、農家・企業との情報交換

大阪府立東大阪みらい工科高校

➢工学系大学進学専科

○R7.4開校

○総合募集の系(機械工学系・電気情報工学系・都市住宅系)、及び工学系

○工業技術者の理論を学ぶ工学系大学への進学を見据えたカリキュラムに加え、各分野の基礎実習を幅広く実施し、「将来の高度技術者」の育成をめざす

○R7選抜は、総合募集の専科で1.00倍(工学系大学進学専科は0.29倍)



大阪府立 水都国際中学校・高等学校

➢ 国家戦略特区(公設民営学校)

○H31.4に大阪市で開校(併設型中高一貫校)

○指定管理法人は、学校法人・大阪YMCA

○国際社会でリーダーシップを発揮し活躍するとともに、将来の大阪の経済成長を牽引する人材を育成

○副校長等に外国人教員を配置(約3割が外国人教員)

○R2年から、高校2~3年生を対象に、国際バカロレアコースを開始

○海外大学合格実績:R4・14名、R5・36名、R6・33名



今後の議論の進め方

- 今後、議論を深めていくにあたり、議論の切り口をテーマⅠ～Ⅲに分けて、議論を進める。

◎ 検討テーマと主な論点

テーマⅠ グローバル化やデジタル化等に対応できる人材づくり

- 将来の予測が困難な社会において、グローバル人材やDX・AIなど成長分野を支える人材を育成するため、各学科の特色化など、どのように進めていくべきか。

本日の議論

テーマⅡ 多様な生徒を確実に支えるしくみづくり

- 不登校経験や学び直しなど、様々な困難を抱える生徒に、どのような学びの環境を提供していくべきか

テーマⅢ 将来の東京を担う人材を生み出す都立高校づくり

- 生徒や保護者が「通いたい、通わせたい」と考える都立高校には、どのような魅力を備えていくことが重要か